

18



24

24

日記

自四月九日至六月八日

24

20.4.9 ~ 20.6.8.

柳堅徳子

用ノ一ト統制株式會社



四月九日月曜日

今日は、いよいよ出発の日だ。朝食がすんで、少し  
休んで、お兄様に、自轉車に乗せてもらって、  
墜の所に行った。昨日の日中の空しうで、落ちた  
のだ。お兄様がいよいよになつて、お兄様に見に行つた  
時は、見られなかつたので、今日こそは見たい  
と思つた。お兄様の上、さうじやう席や、いろいろ  
の物があった。同體で、つばさからは、煙が出て  
おた。歸つてから、又自轉車に乗って、お兄様に  
お符を買に行つた。

歸つてから、いよいよお兄様と、いろいろなことを  
して遊んだ。お兄様が、いよいよこの人にもつた  
お兄で、お兄様をぬいたり、喜んでお兄るので、お  
かしこでたまらなかつた。

晝食がすんでから、いろいろ持つて行く物を  
きちんと揃へた。食料も持つた。雨が降つ  
てゐるので、荷物をぬれないやうにした。  
早々飯をいただいて、お兄様といつしよに家  
を出た。お兄様、上野に着いた。車坂口の方に  
行く途中、何先生だめなやつたが、ちよ  
うちんを持つて、車坂口を教へて下さつた。  
とうとうお兄様にお別れして、ホームには  
いり汽車に乗つた。これからは、汽車の旅だ。  
るのだと思ふと、うれしい氣持になつた。



少しお話をしつゝゐると、先生が、おねなさい。とおっしゃったが、なかなかにねむれない。知りずのうちにねてしまった。

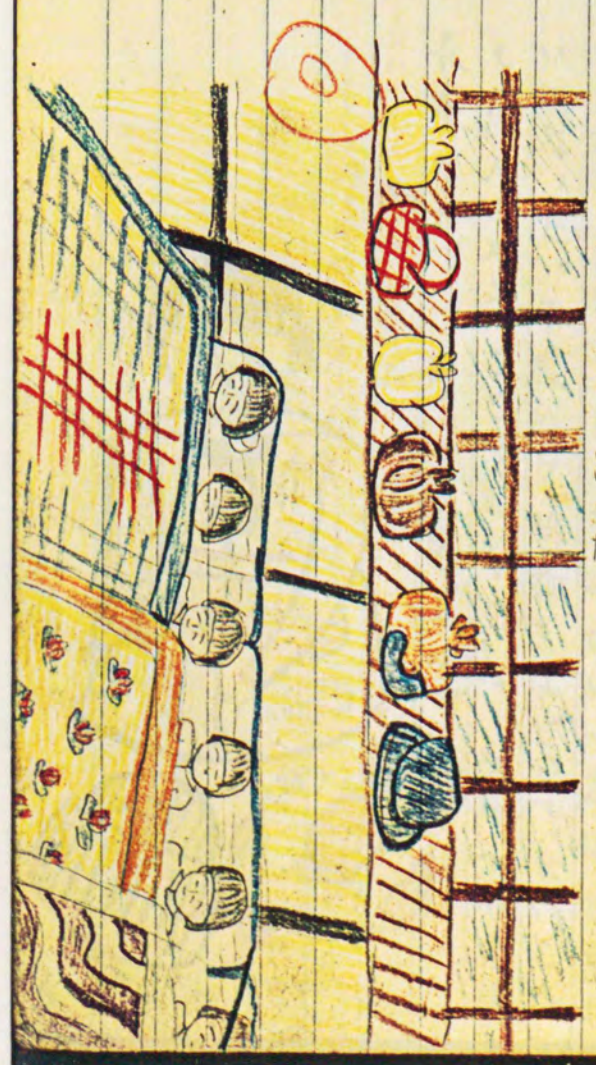


四月十日 火曜日

今日は、午後四時半頃福光へ着くさうだ。朝から待ちどろしい。ここで朝と昼の御飯をいただくのだと思ふと、うれしく待つどほしい。先生に、乗りかへは、いつてみか。などと聞いた。汽車の中へ入が、朝の御飯です。と知らせにいらした。それから少しして、朝食をいただいた。あまりおなかなかった。それから、國行さんや、菅村さんと、トシネルの数を数へた。二十三位あった。宮地先生が、浅間山のことや、妙高山のことをせつ明して下さった。私たちも六年になつて、平和だいたうのぼれると思ふと。

忽ち富士に來ましたね。さあ、しつゝと生活をいつていませうね。

とてもうれしくなつた。さていよいよ、乗めへた。重い荷持を持って、じゃう端線に乗った。ゆうびん車で、すわるところは、一つもない。五つめ六つ目に、福光へ着いた。雨なので、とても歩きにくい。やうと、福光國民學校へ着いた。今日はまだ荷物がどいてゐないので、立野ヶ原の集録所へとまらせていただくさうだ。又雨の中を行つた。ずねぶん歩いて、やうと、集録所へ着いた。あたためいゆげの出つてゐる御飯やおみそ汁をいただいた。少しして、めくら、ねどこについた。二つのふとんに、五人なので、とてもきゆうくつで、おふとんからはみでさうだった。でもねられるだけありがたいと思つた。





四月十一日水曜日

今日もまだ雨だ。つまらない。歩いてゐるうちに、だんだんおくられてしまった。とうとうみんなとはぐれてしまった。ちつと福光校へついたら、みんなにお待たせしてゐるかったな。と思った。

お昼御飯の途中で雨がやんだ。うれしいね。おとめ、よめ、たのね、なぐさ、さきあった。いよいよ、こんど錦所の第二夜だ。みんな所へつて、川で手を洗った。とてもきもちがよくなった。足を洗って、おる人を見て、とてもきもちよさうだった。それから、おはがきをめいた。おれものもめいた。

晩で、おうちのはおんないだいて、あまったものは、みんな先生にお出した。



四月十二日水曜日

朝食の時、昨夜お出ししたものをみんなで分けていただいた。おは、どこに行つてゐるか、しうな、どと思つてゐると、高島さんが、柳野さんがあった。たしかに、これ柳野さんのよ。とおっしゃった。見ればほんたうに、おれだった。岩田さんのうしろ、いふかしパンもいただいた。おれもこれもおかしかった。お荷物がとどいた。と昨日の夜おっしゃったので、みんな荷物を持った。おれはな、うれしかった。朝食がすんで、お荷物をお前田うに運んだ。それから、山下うのおさうじきをした。たまたまにかびがはえておたり、きたなかつた。お手洗のおさうじもした。岩田さんと二人でした。きたなかつたのが、みちがへるほどきつた。いになった。午後から、荷物をほめて、せいとんした。今日から、こでゐるのだ。おれが、おど班長だったので、ごあいさつをした。

今日はおれ、働きました。





四月十三日金曜日

いよいよ、今日から前田の生活が始まるのだ。  
洗面する時は、一つの場所に、二つづつなので、そ  
くはなってしまう。お昼食をいたたきに行くと、前  
にこのおうちの御主人の弟さんが明日出征なさ  
るので、兄のお祝いの赤飯をいただいた。餅米は  
ありなので、とてもおいしかった。おうちの人は、こ  
んなおいしいお赤飯などはたべておかないだろ  
うと思った。こんなに親切にして下さるのだか  
ら、先生に御ちやうさいをいけないうりっぱに珠  
璃をしやうと思った。

お夕飯がすんで、岩田さんと山崎さんと三人で丸  
窓をしてゐると、宮地先生が、ルーズベルにが  
死んだよ、ノーマイックで、とおうしやうたの  
で、とてもうれしかった。早くイギリス大い  
りようも死なないかなと思った。



イギリスは、大統領のうさぎさん、  
王様がわがやう。

四月 十四日土曜日

朝五時に起きて出征兵士をお送りし、福光駅ま  
で行った。ほめの方もいろいろして、駅はとても人  
っぱいだ。すると、福光国民学校の男子のせいとさん  
が、いのりの樂器を持っていらした。さうと兵隊さ  
んを送る時、音楽をするのだらうと思った。どこかの  
おさんが、じやしんをうつして下さった。早くそのし  
んが見たくなった。

ホームにはいって、兵隊さんを送りした。  
午前中は、福光町見學に行つた。たぬもかを取つて  
ゐるところを見た。もぐらがぬたので、鼻を持ってぶ  
らさげた。とてもおもしろかった。かへりは、きれいな石を  
拾った。









四月十七日火曜日

朝會がすんでから、石段の所に並んで、記念  
寫眞をうつした。うつす時あめしくなつたの  
で笑つてしまった。

それから前田寮に食器を取りに行きすぐお昼  
御飯をいただいた。

午後から、日記を書いた。五年生の大きい方から  
十人お酒を持って福光國民學校の方へいらっし  
やうた。私は運べなかつたのでついでになつた。  
もう少し大きければよかったなあと考えた。  
まあとも、と上にのびる時はさちんじのびて、  
それを高ゆえしやうと思った。

夜は日記を書いた。ぬる時でも先生に、ま  
はうのうゑをよんでいただいた。

茂木先生



四月十八日水曜日

昭和十七年の今日、大空しゅうのあつた日だ。  
だが、その時よりも十二日の空しゅうの方が大空しゅう  
かと思つた。

朝食がすんでから、おべんたうをつめた。食器  
を山下寮へあづけて置かせていただいた。岩丸先  
生が目標は、滑空くん練所。とおっしゃった。

八矢部川の橋を渡って少し行った所で、くん練  
所へ行く道とちがふ道を行つた。私は始めはま  
はりをするのかなと思つたが、行く先と先生が、民  
家へ道を聞きにいらつしたため、あめしくなつた。  
みんなが、先生は負けおれ、みか強いわ、などとい  
つた。くん練所の野原で、たのしいおべんたうを  
いただいた。とてもおいしかった。なまなが、お腹がは  
らなかつた。それがすんでから、ゴムなはをした。  
飛べる時と、飛べない時があつた。ハッパしぶりに、  
モンベをぬいたので、へんな氣がした。

集合してから、くん練所らしい所に行つて見  
た。たしかにきうだ。岩丸先生に、先生やっぱり  
さうです。とこで、おべんたうをいただいた。はよみ  
つた。とふふくに言つた。

途中で、一部六年に出合つた。  
今日はとてもたのしい一日だった。



四月十九日 水曜日

堀先生がおっしゃった通り、今までよいお天気は、つづいたのが、急にめはって、風がひどい。きつと午後になる、雨が降るだろうと思つた。



今日から授業開始だ。國語は、専門先生だ。國史地理もふえた。ますます一生懸命にしなければならぬ。三時間目の國史の時、宿地先生が、私たちの名前を覚えておられるのでおめした。私の名前をすぐお忘れになるのでおめした。そのうちに雨が降って来た途中であめた。前田寮にかへって、すぐお昼食をいただきますに行つた。

雨なので、なんともさびしい。早くやんでくれなにかと思つた。

午後日記を書いて、鉛筆をけつてみると先生が、汽車の中でのことをかいて下さいとおし

やつたので私は、忙だめきといふのでめいた。縮は次のやうなめをめいた。



四月二十日 金曜日

國語の時間に、大八州をお習ひした。とてもむづかしい。

地理の時間に、東京から福光までのきよりを、ものさしではめった。だいたい、二百八十キロくらいだ。有賀先生のご郷りの名古屋までは、百五十キロ位だ。近くていいなあと思つた。午後めら、お洗濯をした。私は、シャツと下ばきをした。一番にすんだ。それから、日記をかいた。リオルかんをひいた。だんだんすんだ人あり、上へあがつて来た。少し日記をかいて、お夕飯をいただきますに行つた。今日もじやう報がなかつた。

己この國を 神生みたまひ  
この國を 神しちしめし  
この國を 神まもります。







私は、日記を書いてから、モールス符号で、お兄様へお手紙を書いて、岩丸先生に検査していただいた。お兄様がすぐお読みになれるだらうか。

おれからみんなのお洗濯を見に行った。岩丸先生が、お濯していらしたので、洗ひます。といふと、じやそれを洗って、これをけすいで。とおっしゃった。先生は、このおうちの方のお手傳ひをなさるさうだ。なにをなさるのかなあと思つた。さつさつんだよもぎを入れて、お餅をつくのた。おれも見に行つた。おれが行つた時は、もう草餅になり青々として、つちさかいた。岩丸先生もおつきになつた。少しのちたまりをあそばしになつたのでおかしかった。草餅を、一つづつ二ついただいた。とてもおもしろい。



四月二十三日 月曜日

今日は行軍だ。朝早くすんでからすぐおべんたうをたつめた。たふあんも入れた。ほかほかしたたけいけがたつてゐる。

そつとふたをし。さつさつこのうに入れた。いまいよおきだ。ハさのすから順に歩いた。石黒所長さんが石黒窓から出ていらつしやうた。先たうにおあるきになつた。

今日こゝは道をまちかへなひと思つて歩いた。さつと歩いた。涼しいか、もうになつて所ししてから、所長さんのお話をお聞かせした。二三四年生は始めてなのだ。それから、グライターの説明をして下さつた。飛行機に乗る人と同じに、落下傘をつけて走るさうだ。いさゝかなせつめいをお聞かせした。おれも、前田宮は、鷹の野原にばらばらになつて、楽しおあんなうをいたただいた。ゴムなはをし





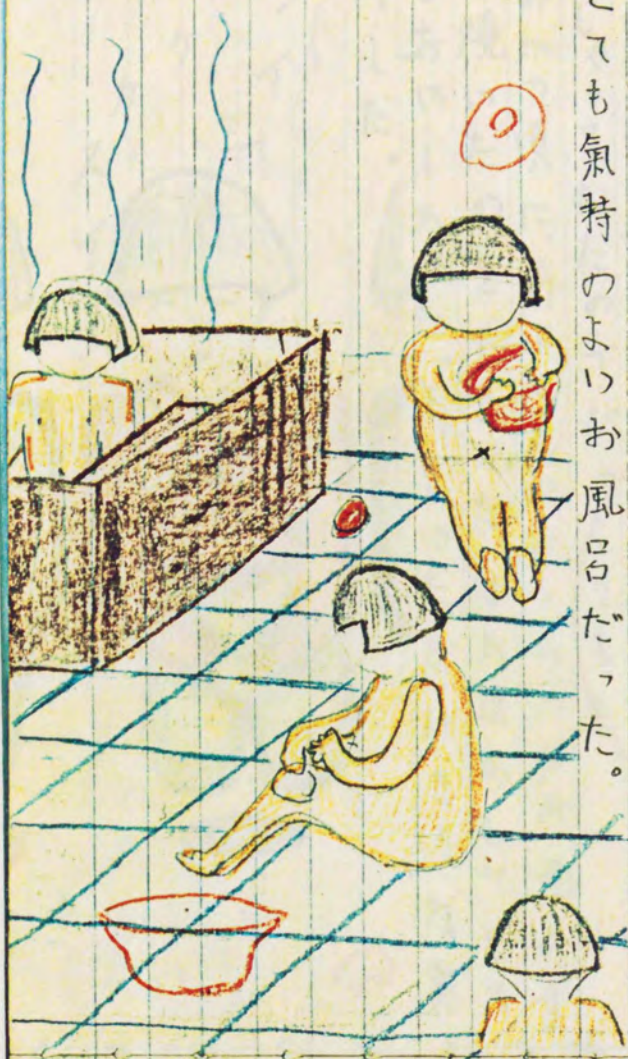
四月二十四日 火曜日 僕

修身の時 勝抜く 僕達といふ本を讀んで下った。いっふう 敵米英がにくらしくなつた。どうしても たたきのめさなくてはならなかつた。

國史の時間に、よみの國や、八つの島を お生みになつた 順をお聞きした。とても宮地先生の國史は とても面白い。一生懸命にお勉強をしようと思つた。

体操の時間にかはらに行つて、さい藤先生にお話を お聞きした。それから國民學校へ歸つた。

われ先にと、お手洗ひへ飛びこんだ。寮舎へ歸つて、すぐお風呂へはいつた。とても氣持のよいお風呂だった。

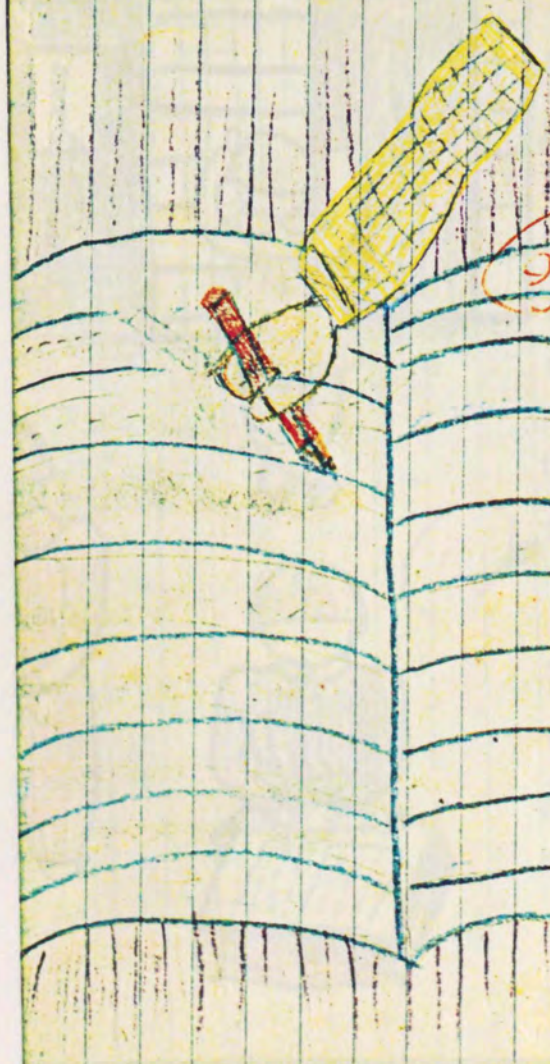


四月二十五日 火曜日

一時間目に、日本の地圖の形をしらべた。だいたいの三つ波のやうだ。面白いなあと思つた。それから中華民國を守つてゐるやうだ。この日本は大東亞をいきてゐたたねばそれだから、一生懸命に勉強をした。くれはならなかつた。

二・三時間目は、お洗濯をした。いつごろかはくだらう、夕方かな。

体操の時間に雨が降つたのでなかつた。圖画の時間雨だったが、阿部先生がいり、しゃつて色を教へてくれた。同じ明度の色を二つあはしても、よく見えなかつた。日記の繪は、うっりのよい繪を書めう。





四月二十六日 水曜日

今日は二回目の班長だ。

國語の時間に、昨日書いたお八洲をかへ

していただいた。秀夫だったのでもう少しし

めた。でもこれですべてはなうではなう

だ。もっともつとがんならうな。はなう

ない。！國史の時間に、山下寮のお玄

関の前でお習ひした。今日もいつもと同

じやうに面白かった。

午後から、トコ屋さんへ行った。十人だった

ので、とてもをそめた。私は短かいうへに

また短くした。有賀先生がいっぱいだった。

りきつと、お笑ひにならうと思つた。

寮舎へ歸ると、もうみんな歸つていら

っしゃってゐたのでびっくりした。

お八つ頃に、前田さんのおうちの音が酒かす

の焼いたのを下さった。ほかほかしてとて

もおいしかった。も、といっただけさうな氣

がした。



四月二十七日 金曜日

今日は一時間目がすんで少しすると、木の實

が機関銃の聲のやうに落ちて来た。

始めは、雨かと思つたが、どんぐりの小せ

いののやうだった。世中にはいたり、頭に

あたった。たりと、もいた。のうちに、雨が

降り出した。かけ足で、山下寮に行った。

歸る時は、雨がひどかつた。寮に歸つ

て、日記を書いてゐる間に、阿部先生が

いらつちやつて、色を教へて下さった。ぬたちが

茶色とか、はた色とかいふと先生がさうい

ふのではな。と教へて下さった。その

他、こいといふ、うすいとかいては、いけな

いさうだ。

同じ明度の色といふしまにしてみても、は

きりわからない。何だか面白かつた。





四月二十八日土曜日

今週も今日で終りだ。算数の時間は、六頁にまでした。わり算の筆算がわからなくなつたので、喜門先生にお聞きしに行く。こちようど、岩田さんが見えていた。たので、待ってゐた。お答に丸をつけた。り、や、や、こしい問だけがあった。あんどくさい。まああつてゐる。たうとあつてゐたので、おかしかつた。修身の時間は、有賀先生がいらっしゃる。長のお書をお習ひした。ずねぶんあちつていらつしやると思つた。そして、海軍の人でなくとも、佐久間延長をお手本にして、リッパな日本人にならう！午後から、しきぶとんを屋根に干した。



四月二十九日日曜日

今日は世にも目出たい天長節だ。福光族の生徒たちが、儀礼いしやうをつけて、とてもきれいだ。私もつけた。いやうな気がした。今日のお式は、赤松族や、福光族に負けないやうに、りッパにすまうと思つた。朝食がすんでから時間があつた。廊下には、御眞影の戸は、とてもきれいだ。講堂の御眞影の戸は、とてもきれいだ。せんと頭がさがる。いよいよお式が始つた。中村校長先生が、ごしんえいのとびりをあけ、開きに、お式は、いつもとちがつて、私たちにも、はつきりわかる。お祝いの日なので、族服でゐた。又、かけぶんと干した。森先生や、山口先生や、こほり先生がいらつしやうで、とてもにぎやかだ。





四月三十日月曜日

明日からはもう五月だたん午のお節句と  
のある五月だ。土曜日はたのしみしてゐる  
発表會がある五月だ。

算數の時に六ページをみんなするのだ。  
書門先生がおいでにならないうので、男  
子はいきさだ。私たちに聞きに來て、教へ  
ないとおこつたり。お迎のわかだに來て遊  
んでゐる先生がいらつしゃつたりどうだ  
りと思つた。あさいほうの時間もつづいて、  
算數をした。とても面白い。もつとも  
としたいなあとと思つてゐると晝食にな  
つた。今日も又一番びりだ。いやになつてし  
まつた。午後から寮舎へ歸つて、発表  
會のおけいこをした。



五月一日火曜日

今日から新しい月だ。

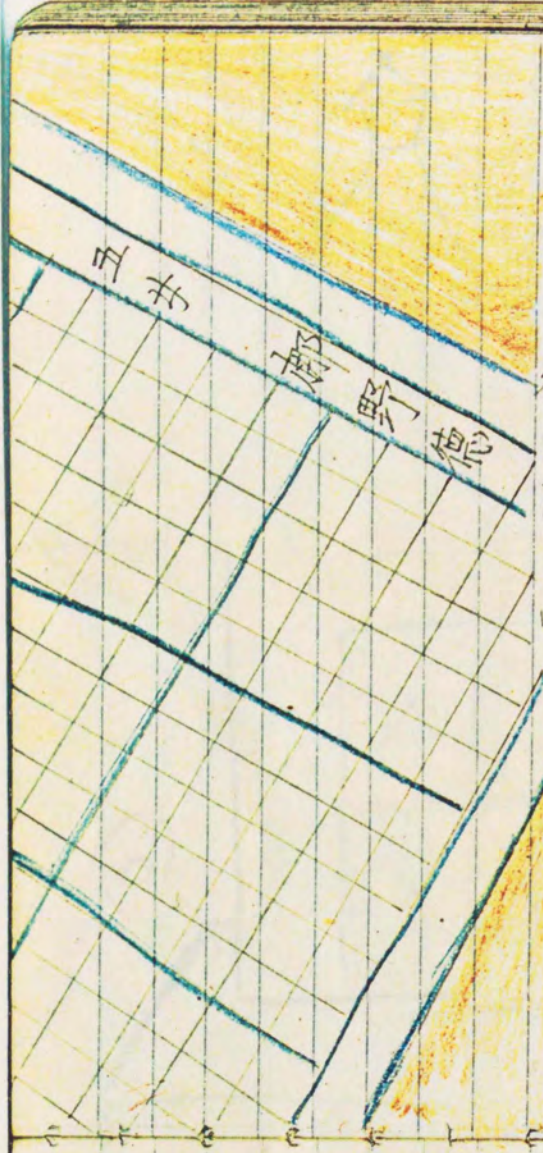
午前中はまき運ばんをしや。今までの  
り近々。今までのやうなまきでなく。  
桂になつたりする外側のだ。鈴木長次  
の長さんのやうな長いや。だんごのや  
うに太いのや。光永中尉のやうなおひけ  
のはえてゐるのがあつた。三部六年の入  
達は、先生にはめられるんだ。などと  
言つて、あへぎながらよくばつて持つて  
ゐる。少しやせがまんではなかつたと思  
つた。二回目は途中ではなかつた。しま  
つた。づまらないわい。などとふんがいし  
ながら中川さんと落ちてゐる水を集  
めた。





五月二日 水曜日

晝食の時に、岩丸先生が、五・六男がはくものさし、したどき鉛筆をもつて、図書館に行きなさい。とおっしゃった。何をやるのだらうか。なんだかふしぎだ。日記を書いてゐると、階殺がさへわがしくなつたと思ふと、男の子がはいつてくる。岩丸先生もはいつていりゃつた。先生が、西洋紙を持って説明をして下さつたので、私たちはすぐ岩丸にのりかゝつた。面白い。どんぐり事件がすすんで行く。表もどき裏もひいた。岩丸先生が、やめー名前を書いて出した。さういふとおつした。さういふ。何にかふかといふことをお聞きした。さういふ。さういふのだ。とても待どほしい。

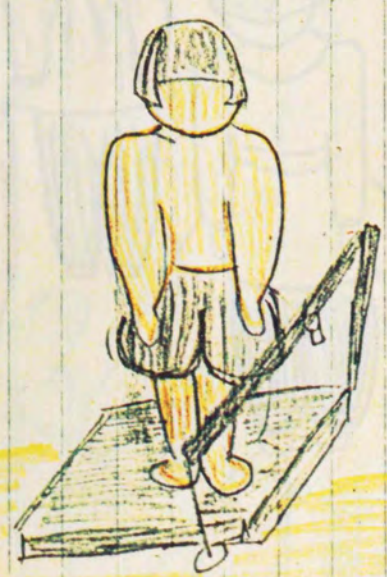


五月三日 水曜日

測定

今日は、午前中は、体重を測つて、午後はしめたうた。ふえてゐるかな? さういふへつてゐるかな? 階殺を降した。アイウエオの順にした。私はおしまひの方だった。とてふもたいくつだ。目わけんさをした。両方ともはだつた。とてふもうれしかった。身長は、だうだらう。なんと思ひながらせいばかりの上にあつた。とてふ大きい三角じゃうぎだ。ふえたかへつたか。わがからない。胸おだ60。これもふえたのか。わがからない。体重だ。21.8だ。わあ、ずいぶんへつたなあ。三キロ近くだ。いさう土地や水が、かばつたといつても、さうなにはるかなと思つた。さういふ減つたのさうか。午後からしめたうた。先生方は、さういふ私たちは、四つだった。

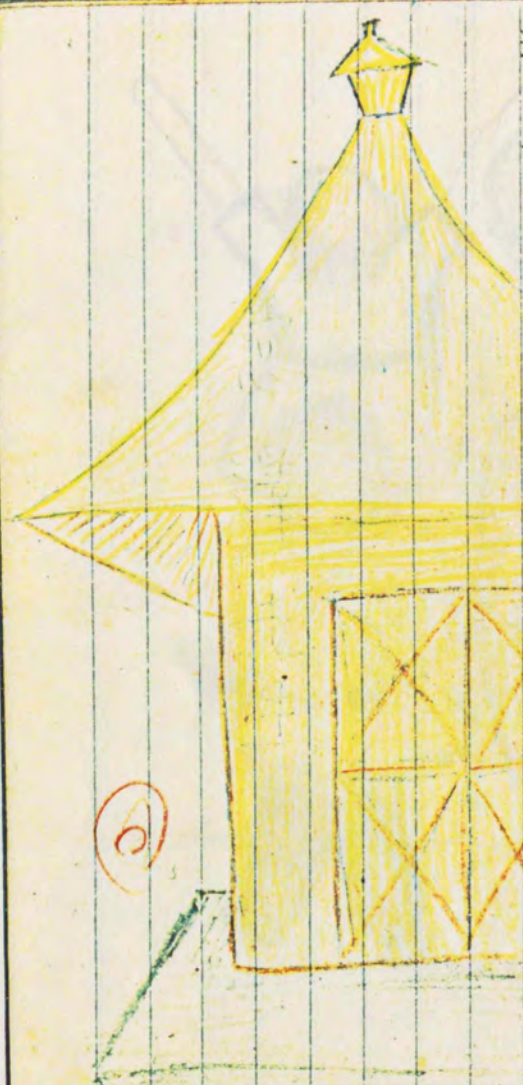
21.8





五月四日金曜日検査

今日は身体検査。ぬたちは一時間目がすんでからすぐ、本部専らむ室へ行った。今日は、身の方のけん査だ。待ってゐるうちにぬのばんになった。耳をやった。ど胸、せ中をした。みんなよいとあつしやつた。すぐ昼食の用意をして外へ出た。午後から体操の時間は、自習だった。ので寮へめへり、少しの間けきのぬんしゆうをして、又すぐ圖画の時間に行つて、今日は、おみこしのほいつてぬるところを書いた。屋根が翼をひろげてゐるやうだ。ぬれがすんでから寮へかへり、つみ草におうちの方と行った行かない人もぬた。よもぎを少ししかつまないで、石を投げて遊んでばかりぬた。



五月五日土曜日發

今日は待ちに待った表會がある日だ。あきうじがすんでから八百谷さんや野村さんたちのお荷物をおふとんの横にうつした。きれいにお花をかざつたりして會場を作つた。ひな祭の部屋が會場で、すぐ蘭ががく屋だ。おふとんをこつんでとて、もうすぐぐらゐ。白百合すみれがかんろう席だ。思へば今日は、たんごの節句だ。朝もあ畫も大ごち走だ。午後から寮へ歸つて、鰯のぼりを作つた。白百合がふきながしすみれ、ひな祭がひ鰯、すすらんがまごいだった。どれも晚みんなが集つてからはじまつた。どれもどれもおも白かった。すんでから、あんころ餅をいただいた。とてもおいしかった。





五月六日日曜日

今日は朝から気分がわるいのでねた  
茂木先生が、机のそばで、みんなが行  
ってさびしい時、つぎものをいっしょに  
やった。みんなは全校体操に行くとだし  
た。たまたま知らない。だんだん気分がよ  
くなってきた。いろいろ話をしておると  
郡先生と、並木先生が茂木先生に御願  
いをゆつたりいっしょにやっていた。私は、はづかし  
いので、ふとんをかき、あつてしまった。それから  
少しすると、近藤先生がいらして、やっ  
た。起きて、みんなの体操を見に行きた  
した。くつしたくつしたまふない。  
茂木先生の横で見えた。



五月七日月曜日

今日はわりび・ぜんまいのびるその  
ほかいろいろの野草を取りに行  
くのだ。朝用意をして、学校に行  
た。御飯がすんでから、先生と四五人の  
人で水たうを持って、炊事場へ行つてお湯  
を汲んだ。お腹や、せいや、腹や、あらゆる  
ところにかけて、道を通つて、学校へはい  
つた。とてもあたたかい。はづしたくなくな  
ってしまった。みんなにさづいておるとあた  
たかみがさめて来た。先生が、おべんたうを  
つめていっしょにやる。あかづは、大柄なラッキョ  
だ。お晝が楽しめた。  
だんだん歩いて、堀先生のおうちで昼食  
をいただいた。かへりに、グライダーのま  
空を見せていただいた。

うーりたね

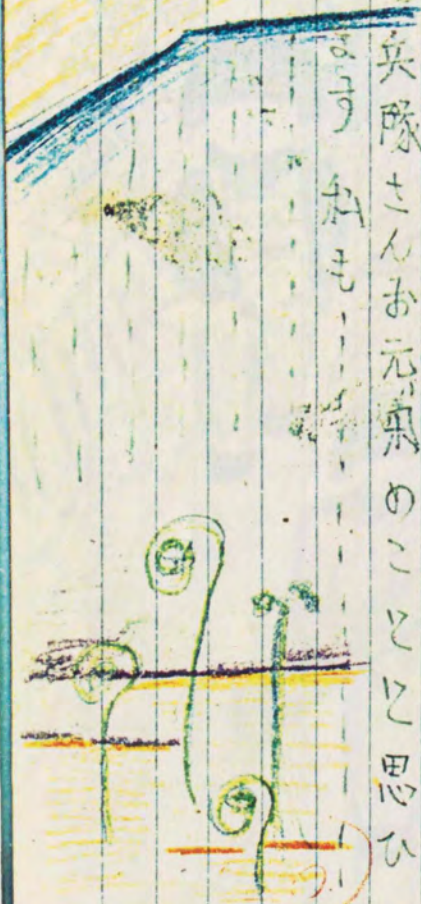




五月八日火曜日

今日はこちらへ来て始めての大詔奉たい  
日だ。朝會がすんでから講堂をおかり  
して、奉讀式をした。それから寮へかへ  
ってすぐ慰問文を書いた。今日は、うと  
うも作るのだ。午前中ふうたうに時間  
をかせさうだ。午後から、五六年の特別  
科學班の理科がある。それに今日は  
お風呂だ。狐先生のお話がすんでから、  
田んぼへ行つて、まぐわを見た。馬は早  
いが、牛はのんびりのんびりしてゐて見  
てゐてもたいふつする。すきぐわを持っ  
てゐる人も困ったやうにゆつくりと歩  
いていらつしやる。馬の方は又早すぎ一困っ  
ていらつしやるやうに見える。とても面白  
かった。歸つてから、頭を洗つてすぐお風呂  
へはいった。岩丸先生と沢のかけっこをした  
とても面白かった。

兵隊さんお元氣のことと思ひ  
まうねも



五月九日水曜日

今日はまき運ばんだ。雨が降つたので、  
とりやめに派なつた。一時間目は、山脈  
や、火山脈を調べた。山脈が十四尺  
山脈が七つあつた。先生が、いつ山下寮  
からは北つするかわからなかつた。お  
つしやつたので、恐しくなつた。天候は、  
音樂の時間は、日記がたまつてゐた  
ので書いた。またまだおいつかない。  
午後から雨が降つていたが、英靈迎へ  
に行つた。福光枝や、赤松枝や、福光サ學  
版のト人がたくさん集つていらつしやる。  
そこへ私たちも行つておむかへした。すん  
でからすぐ前田寮にかへつた。有賀先  
生が、おいしがしやうに、岩丸先生のおにぎ  
りを作つていらつしやる。お園へお歸り  
になるのだ。

ほり。  
く似て  
おとすね





五月十日 水曜日

朝食がすんでからすぐお掃除をした。水・金・土と五日サ子だ。小さい方七人だけした。途中で朝會になつてしまつた。二号室で朝會をして又分づけた。今日は午前中まき運ばんなのだ。きれいに早くしなければならぬ。机を並べたりひいたりしてあるうちにおひとなつてしまつた。すんでからすぐまきのあつたところへ行つて平松さんと二人で運んだ。ぬれてゐたのでいつもより重かつた。途中から石田先生が、兵長とか、他長とか、軍曹とかきめて下さつた。

私は、兵長から軍曹までしかあがりなかつた。一回目からだった。少し耐えられなくなつたのだと思つた。



五月十一日 金曜日

今日も又山草を取りに行くのだ。朝から曇つて行けるか行けないかわからない。やうなお天気だ。だが朝食がすむころは、晴れて来た。うれしい私はすぐ思った。今日は太見山へ行くのだ。おべんたうきを持って運動場へ集つた堀先生がすげがさかかぶつていらつしやる。大井から出發した。お宿帳で休けいして又歩いてから、桃野といふおうちで少し休ませてもらつた。又西太美の國民學校へ行つた。着いてから、清水さんを手を洗つてから、お昼食をいただいた。のりや、おりんごもいただいた。とてもおいしかった。

歸りにふきを澤山取つて袋いっぱいにした。のびる・もち草も取つた。



雨が降るよ

こまうらなね





五月十三日 日曜

今日は、全校保健操があるはずだったが、  
取り止めに成り、午前中は寮舎の大  
掃除をした。私たち四人と、三軒の七人  
とで、荒木さん（を）先頭に、學校のまは  
りを大きくまはっていろいろ研究す  
る事を見つけた。吉波寮の人たちが

みんなで大島さんの面會にいらつしや  
 った方を、小矢部川のどこまでお送  
 りしていらつした。  
 學校へもどり、寮へかへり、整野をし  
 た。夜おりんごをいたただいてから、私たち  
 バカ班であまりバカだから大く勉強す  
 るのよ。といってゐると先生がお呼びにな

つた。私たち四人は先生の所へ行った。先生が、  
「バカ班などといふかげに自分では理科



特別科<sup>ワ</sup>學<sup>ガク</sup>班<sup>バン</sup>を鼻<sup>ハナ</sup>にうけては絶<sup>ツク</sup>對<sup>タイ</sup>に  
いけませんよ。うく注意<sup>チュウイ</sup>下さい。



や算數が出来るといふわけだから、私は  
ぜったいに言つてはいけません。とあつした。私  
はほんたうにさうだつた。今までいけなかつたこ  
とを言つておたと思ふと、なんだか、はづかしそ  
なうてしまつた。

野<sup>△</sup>  
反<sub>對</sub> 魚  
たの  
つり  
おる  
のち  
せう  
ね



五月十四日月曜日

あさいほうの時間には下ばきを作る布や、糸の事を習ひした。私ののは、キラコより、やはりいい布だ。平松さんはネルだ。今までは、ズロース・パンツなどと言つてゐたが、今度は下ばきと言ふ事にした。ブルマーといふのは、中ばきといふさうだ。四時間目は、國語だったが、体操とまちがへ自習だと思ひ、お炊事をした。始めかんさう羊を焼いた途中から、おりんごを洗った。又お羊を焼いてゐた人とかほつて、又焼く人くんよいにほいがして来たお晝は、御ち走で、お魚・りんご・たろあん・かんさう羊があった。皆とてもおいしかった。

斜學班の理科の時間は、自由研究だった。岩田さんと二人で川へ行き、たきのやうな所を見た。面白い研究だと思つた。



五月十五日火曜日

いよいよあさっては發表會といふせつはつまつた今日、動きをつけてやるのだ。自習の時間少しおけいこしたのだが、なかなかうまいぐあひに行かなかつた。午後はお風呂だった。が、まだぬかぬかのので、ぬちの番になるまでおけいこをした。何となくいやなので、又みんなでちがふことになり、きめた。今度はみんなさんせいで、服さうも生懸印におけいこするのだ。服さうもつけて一度おけいこした。私は、平松さんに着物を羽織りあげて、私は、岩田さんの着物には、おけいこする。お晝は、お客様が、まん足なさるだらうかと思つた。夜しゅう床用意の前におけいこして先生に見ていただいた。

富山縣  
一生懸命





五月十七日 木曜日

今日は、待ちに待った発表會があるのだ。せっかくなのでみんなはあけいこをしたのだ。めう上手にしゃうと思つた。午前中は授業で、午後一時から遊ぶのだ。一時間目に昨日した書取を返していった。いた。今度のはだいまちがへたので、今度は、みんな出来るやうにしやう。

思つた一番多し人であつたので、三時間目に、或史があつた。じやうにとても面白かつた。四時間目は、自習をした。役表會に使ひ道具を取りに行つた。歸る時、中川さんのお母様とお兄様が重會にいらつしやう。私は、らやましうなつた。

午後になつた。いよいよ始まるのだ。順番が来つて、とうとう私たちが出なけ

通りにした。私たちが、はづかしがつた。おきけいこの





五月十八日 金曜日

朝洗面がすんでから、いつものやうに岩田さんと二人で、川へ行き、水の深さ、流水の早さを計った。今日の理科の時間に今まで研究した事を報告するのだ。まだ少しがわからな、少し前からいしぎだった前田寮のオルがこの所にある電燈だ。昨日もぬる前に、ひもを引っぱって見たが、どうもふしぎだ。だから今度その事を所究しようと思つた。はたして、それはぬるだらうか？。今日も又小雨だ。少し少し降らないで、スコールのやうに降って、くれればよいのにと思つた。一・二時間はづいて自習だった。日記を書いてゐると、お隣では、上とめか、一・二などといひながら、上までしましたなどと言つてゐるので、ぬもしたくなつてしまつた。算数の時間は、円のぬこをを習ひした。それから、今度から時間が始まつてからすぐ暗算をするとおつしやつた。今日はまだ始めなので、やさしいのをするとおつしやつた。三年生までがあんなのやさしいやと、言つてゐる。だが増長しては、いけない。いくらやさしくても、しっかりしなくてはならない！

變

三時間目の体操の時間は、山下寮の前へ集合して、から、本部の事務室へはいり、お火鉢にあたりながら、おうち番地や、所の變つた人は、それ先生に申しあげた。それから、久米川、學校の事などの變つた情報をお書きした。今、あの郊外園の本部に、海軍の方たちが五十人、いらつしやうさうだ。山水中學校も焼けたらしい。とおつしやつたので、お兄様は、どうんな事をしておるのだらう。フーライボーかな？。

お晝は、ラッキ、たくあんだった。おつりは、とりだった。もりつけをしてゐるとおつた。五時間目は自習だった。先生が夜ばく弾が落ちるとおつしやつたので、みんなだまつて書いて、とてもしづかだ。





終に並んだ時、先生が、毎日毎日面會に行つてやりなさいとおっしゃった。私は自分よりきうりの方が面會がたくさんあついなあと思つた。私にも毎日面會があるとうれしいのだがなあ。

その中にいろいろあります。

面白日記した。 柳野さんか。 今の素直な気持  
をすゝと伸べて行くやうに。 先生はねか  
つて居ります。

今度は、――でのあたよりを言つて下さつた。先生が途中でお止めになつたので、岩田さん二人はそれを解いた。おしまひに、――  
――（ハイチャ）と書いてあつたのでおかしな事になった。

五月十九日 土曜日

五月廿三日  
朝會は運動場が使へないので、体操がなかった。算数の時間は、男子がまき運びなので、私たちは自習だった。有賀先生に日記を返していただき、日記を書いた。お隣や、後ではお修の本を讀んでいらつしやるので、私も讀んだ。  
お修の時間は、先生が始め、圖書館でやりませう。とおっしゃいましたが、戸が開かないので、前田寮へ歸ってしまった。みんなが先生の前に、みんな丸になると、先生が、人くさいとおっしゃったので、鈴蘭のお部屋にすみにちよこなんと言った。いよいよ始まるので、今度は先生の後にすわって、後には鼻がないうから大丈夫だ。などと、言つて、又ちよこなんとしてゐた。勅語の奉讀するので、私は先生の後から手をあげると、先生が、私をおさしになった。おかしいのをこらへ奉讀する。



と少し言ったかと思ひ、とみんなが笑ひ出したのでおかしくなつたので、ふき出してしまった。先生が「それでは、勸語をあとにしませう」とおっしゃつて、近江聖人をお習ひした。私は、中江とうじのやうなりっぱな人にならう。……自分の心を正しくし、よういふ事をする。誰だつて、

晩みん  
た。先に  
理科がすべでか  
うちやうできごんだ。涙が出て来た。有



茂木先生も  
加つていらつし

涙  
涙をして  
やつた。



も  
洗

五月二十日日曜日  
今日はよいお天気だった。が、全般的に（銀）  
ん、鋳造はなかつた。十二時間目は、理科  
だった。が、三、四時間目に、なつた。すく  
寮に歸つて、荷物の整理をした。いつ  
もいつもきつて、しつと四年生のお手本に  
なりうと思つた。三、四時間目は、畠の  
所へ行つてゐる。豆の研究した。とても面  
白かつた。

午後からお洗濯をした。下ばき・下着  
ハンケチ・ふ布・なごせを洗つてから、しき  
布も洗つた。とても大変だった。私は、今ま  
でお母様がこんなにして洗つて下さつたの  
だ。お母様は、感謝し、謝しなければならな  
い。それから、このことをおはきで、お知らせし  
たり、どん、な、にお喜びになるかわか  
らないと思つた。

存分に自分で  
何でもやうみ。親の  
有つた、ことが分ります  
ね。お母様も、おとうさん  
も、先生も、とてもうれしいうさ。





五月二十一日月曜日晴

朝早く起きて顔を洗ひ、半そででかけ足をしに、お宿へ行った。船岡寮がなかなかなまないので、係をさせた。先づ参拜してからかけ足をした。前田寮の前を通つて山下寮の前を通つて又お宿にもどり、二でかいさんになった。寮へ歸つてお掃除をした。おべんたうをつめて朝會をし、出發した。くわ山といふのは、大美山よりずっとちかい。だがずの分きだ。どんどん登つて行つて、ちよう上で楽しいおべんたうをいただいた。するめ・いり大豆もいただいた。歸りは降りやすい所から、かさい順に降りた。すべつてもんぺをよごしてしまった。みんなすべるので「キアキア」言つてゐるほかに、はなにも話してゐた。私は、先生の後ばかりついて行つた。まる（雨）すひつきたこのやうだった。たいぶん（雨）なんをしてやつと道へ出た。茗の上にするつて、せん水艦の台所の歌を歌つた。四番までみんなわかつた。とても面白い歌だ。寮へ歸つてゆつくり身を休めた。

今日の山筈取り



五月二十一日夜

中々良い日記です。お授業は第二時から始まつた。三時間目から見るを楽しく、寮舎へ歸つて入浴をした。頭を洗つた人も五市人あつた。とても暖かくて、気が持がよかつた。すぐお晝食に行つた。六時間目がすんでから寮へ歸つた。前田さんのおうちの方が、山石丸先生が歸つていらつしやうた。とおつしやうたのは「わあ」と言つてみんな二階へかけ登り、教室の前へ行つた。久しぶりで先生を見たので、なんだか顔がおかほりになつたやうに思はれた。夕食は、とても大ごち走だつた。うの花・ぬだがあつた。うの花は、おわん一ぱいで、御飯と同じ位だった。さうして御飯が先になくなつて、うの花がのこつてしまつた。とてもおいしかった。

五月二十二日

今日は青少年學征にまはりたる勅語の御下賜記念日だ。三十分あくれで、朝會にひき續いて奉讀式があつた。序佐八階寮の前でやつた。お授業は第二時から始まつた。三時間目から見るを楽しく、寮舎へ歸つて入浴をした。頭を洗つた人も五市人あつた。とても暖かくて、気が持がよかつた。すぐお晝食に行つた。六時間目がすんでから寮へ歸つた。前田さんのおうちの方が、山石丸先生が歸つていらつしやうた。とおつしやうたのは「わあ」と言つてみんな二階へかけ登り、教室の前へ行つた。久しぶりで先生を見たので、なんだか顔がおかほりになつたやうに思はれた。夕食は、とても大ごち走だつた。うの花・ぬだがあつた。うの花は、おわん一ぱいで、御飯と同じ位だった。さうして御飯が先になくなつて、うの花がのこつてしまつた。とてもおいしかった。



午後から、チブスにならないうためにす  
る。その日のよ防注射をした。ぬたちは、  
新家さんのお父様にしておただった。

ちくりとしたと思ふともう終りになつ  
てしまった。晩有賀先生に教へていただ  
いて洋服のあげをした。まだ片側だけ待  
針でとめただけで、床用意になつ  
てしまった。有賀先生が、これが出来た  
ら、早くえりくたなるとおっしゃったので、ど  
こまでも自分ですると思つた。



五月二十三日(水)

洗面がすんでから、小泉さ  
んに、お手洗ひのお掃除を  
した。朝會がすんでから、  
かろい体操をした。うでの  
くっしんをした時、注射の  
あとなので、少しだるかつ

たが元氣よくした。一時間目の地理の時  
は、自習だった。男子は地圖を書いてみた  
が、私は、日記を書いたりに國語をした。  
音楽の時間は、男子といっしょに、日本  
海、戦をお習ひした。並木先生でなく、  
加藤先生にお習ひした。  
理科の時間がすんでから、先生が黒

板にお書きになったのを、えっすりお  
帳面に書いた。それが書いてから、炊  
事場へ行つて、わらびをよつたり、あさ  
つきの根を取つたりした。とても面白か  
った。私は、お炊事が大好きだ。

午後から、お授業が始まるまで、日記  
を書いた。書いてから、本を讀んだ。  
晩歸つてから、岩丸先生のおめあげのえら  
豆のいったのと、大豆のいったのをいた  
えら豆は、とてもかたかった。それがすんでか  
ら、洋服のあげの待針をうって、それを先  
生にお見せして、まつりぐけをした。半分  
位できた。早く出きあがるといいなあ。



五月二十四日木曜日

お當番の時、廊下の黒板に、  
立野、原へん、山、い、野と書いて  
あった。高田先生が、山、い、野と  
丸をおつけになった。早くお當

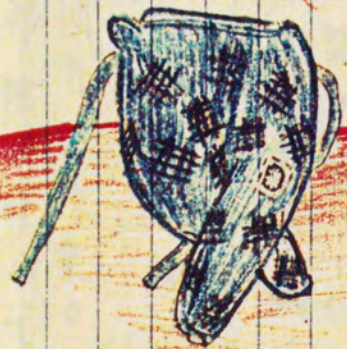
番をすませて、外へ集つた。お當番の人  
と、その外の人に分かれて、来た順に並ん  
だ。私は、四番だった。すぐ寮へ歸つて  
はたくをして、又すぐ急歩で、お宮のけ  
いだいへ集つた。お發たかとい組から  
順に歩き出した。



オコヤ



アイマ



小矢部川の橋を渡って少し歩いて立  
野ヶ原に着いた。岩丸先生を中心に  
して、わらび・ぜんまいを取った。栗の  
木の根本には、すわって取れる位あ  
った。だんだん澤山取れてふろし  
きにいっぱいになってしまった。阿部  
先生の所へ行くとき、二日分あつた一日分  
でよいとおっしゃった。少し又取って行く  
と、三日分がうかるとおっしゃった。それから、  
少しすると、集合になった。それから、  
休まぶが学校へ帰った。お晝はおい  
しい、竹の子御飯だった。のどがかわ  
いておたので、とてもお湯がおいしかつ  
た。夜、梅谷さんからいただいたお砂とう  
を入れたお紅茶をいただいた。熱くて  
あま〜くてもおいしかった。それから、  
もんぺのつぎをした。

五月二十五日 金曜日

朝會体操がすんでから、かけ足をした。  
汗が出た。鼻、汗まがでて来た。

一時、第二回目に、一号教室で、注射をした。今  
日は、第二回目だ。痛いといふ人もあ  
れば、この間より、ちっとも痛くない。と  
いふ人もあった。私は痛くなかったが、あ  
とがちくちくした。地理の時は、自習で  
日記を書いた。昨日、いたいたお紅茶  
の繪を書いても、もんぺの繪を書いても  
ると、山口先生がいらいらした。さうして  
「あらおいしさうなお紅茶だ」とおっしゃ  
ったので、取づかなくなってしまった。すると  
あまかつたお紅茶が目の前に現はれ  
て来たので、またいたいた。きつたくなつてし  
まった。圖畫の時は、けい内へ行って、  
おみこしのはいつてゐる所を寫生し  
た。ちよつと見た時は、何んだこんなも  
のやさしいや、と思つてゐたが、本當に書  
いて見れば、むづかしいものだと思つた。  
理科の時間は、寮園に行つて、寮の  
園にあるものを書いてから、その中の  
一つをいろいろ研究した。私はぬぎを  
した。ぬぎぼうずの事も書いた。

(坊主)



がす

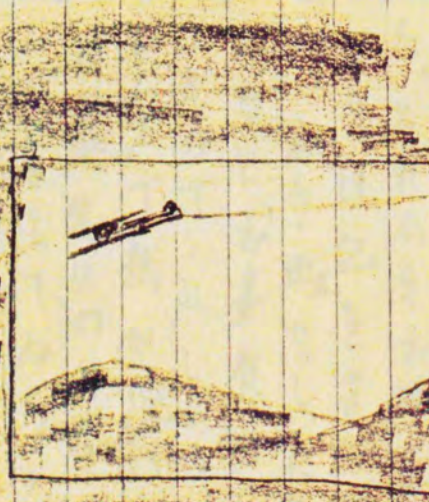
それんでから先生に日記を見ていた。それから月食まで自由自在に運動した。とても暖かくなつてお腹がすいた時。ちやうどお夕食になった。お腹がすいてゐたのでいつもよりなるとなるとおいしかった。



五月二十六日土曜  
朝會の時、もんぺ洋服をぬいで、階段の所へまで行く。先生がお部屋に入りなさい。とおっしゃった。へんだなあと思ひながらお部屋へ

はいり、洋服もんぺをつけて着席した。先生が、この學放で明日する學放の會を今日にくりあげてするのだから、みなに見せていただきます。とあつた。みんなはざわつた。講堂にはいつていよいよあつた。東郷元帥のお話があつてから、いろいろなおゆうぎ、日本海軍の戦の紙芝居もあつた。一番終りに六年サ子のさくらのおどりのやうなものがあつた。せんすはみんなそろつて、とてもきれいだった。それですんでから、三時時間目の授業をした。午後は休養だった。お掃除がすんでか

ら、すぐ寮へ歸つた。さうして、大部分の人は半そでで石黒寮の前集つた。一部六年の人がお掃除や、準備をして、いよいよあつた。いよいよあつた。黒い幕を引いてお部屋を暗くした。一番に出たのは、立堅ヶ原で昭和十五年今日したかく空大曾のたつた。飛行機が引つぱつて行つて高い所をつなはなして先に歸つて来てしばうとしから、グライダーが着陸した。その時は見物人が、花束を渡したりした。あつたに色がいつた。何と見ても面白かつた。途中で終つてしまつたのでつまらなかつた。中ではむつとしたが、外に出るときに寒くなつた。今日は一日中楽しかつた。









びっくりにしてゐた。オルガンをひいた  
 り、めづらしさうにしてゐる。床屋か  
 ら、寮へ歸り、又其學友校へ行つた。  
 頭をかゝつてさっぱりした氣特で、  
 夜先生のお話をお聞きしながら、  
 ぬた。  
 五月三十日水曜日  
 今日、夜間くしん練  
 ある日だ。だが行けな  
 いで残念だ。  
 午前中は、授業だった。  
 二時間目までで、四時間  
 目に、お菓子食をのたいた

午前中、四年生は床屋へ行つた。私たちは授業をした、午後から、おふろへほいたり、荷物の整理をした。それから、床屋へ行つた。じゅん一が書いた原稿、クルミちゃんのや、今のじせつにあはれないものはみんなほつしうになつた。私のは一つもなかつた。ずぬぶんぼつしうものがあつた。二年女子の人に、安藤さんがおふろにはいりに来て、ぼつしうものを見て

を置きに行つた。それから、運、郵場へ  
集合して、いよいよ出發に山下寮へ行つて  
日記を書いたり、地圖を書いたりしてゐ  
た。柿原さんは、だまつて日記も書かずに、  
本ばかりむちりうになつて讀んでゐる。  
お夕食になつた。ちりう室でいただいた。あ  
や、河井さんはすれなないので、瞬掛けて  
いただいた。すわれる人はすわつていただ  
いた。近藤先生が、ごま糰しほをめて下  
さつた。それから、コップに赤くてあまいの麦  
ついで下さつた。それから、お食後にいただいた。  
自分たち、ゆり、ゆり、いもを食つて、ちりうに、い。



とてもおいしかった。夕食後みんなでござ  
る會をした。小さい順にした。終りござ  
になるどぬむたい人かふえて来た。  
か時半ごろ、みんなをとお迎へに行つ  
た。ちようどみんなが歸つて来た。近藤  
先生に、長そでのをおかりして、寮へかへ  
て、ぬぎを着てから、今日岩田さんが見つ  
けた、にぎりめしをいただいた。とてもお  
いしかった。

五月三十一日 水曜日



今日で五月も終だ。今月は、  
どんなよい事をしたか、ど  
んなわるい事をしたか、よ  
くなった事などを考へて  
見た。沖繩島の戦争、テレ  
マ列島の學童たちのせ  
う烈きり入めの報道の事、  
けでござる會をした事、學  
校に休  
づいた楽しい發表會の事など、走馬  
燈のやうに、目の前に浮かぶ。早くから  
午前中は、お洗濯をした。私は、洋服中ばき  
下ばきもんべ下着をした。先生が、ぬり石  
けんを、石けん籠一ぱいづつ下さった。私は、そ  
れを洋服を洗ふ時に使った。干す時は、作  
竿がっぱいになつてしまったので、つな

も干した。

午後から、寮へ歸つて、自由にした。私は  
ち、この間しきぶとんを干したので、今日  
は、かけぶとんを干した。きつと今日は収  
る時氣持がよいだらうと思つた。  
お洗濯した物を取り込んだ。お天氣  
がよかつたので早くかはいた。

お夕食の前におふとんを取り込んだ。  
は、おはかとおたかか。さうして、た  
たんでつんだ時は、いつもよりも高く  
なつた。だんだん暑くなつたので、いらな  
いふとんが高くなつた。ま夏になつたら  
天井までとどろくかも知れない。国々、  
夜寮へ歸つてから、河井さんと上原  
さんと銀蘭のお部屋で日記を書いた。

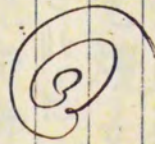
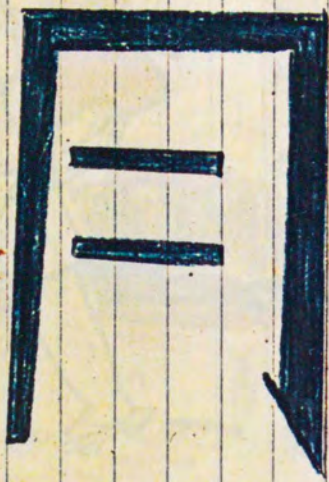
3







◎六月一日



夏草や

ついでに  
やのうら

六月一日 金曜日 晴

朝會の時、六月の班長の任名式があつた。私たちの班長さんは、上原さんだった。さうして、今までの班長は、日直に  
なつた。おべんたうを入れてから、玄関の前に整列して、みんなと別れて、山下寮へ行った。今日のかんとくの先生は、並木先生だった。ぬりゑをしたり、毎日記を書いたり、きせかへを作ったりした。お晝のおべんたうは、とてもおいしかった。うきよの一番大きいのを終にのこした。うきよもきつぱかった。

みんなが歸つて来てから、サ學学校へ行つた。汗が出たので、行った人だけ、ギョウズぬに前田寮にお歸りになった。私たちはお寮屋に残った。さうして、岩丸先生のおべんたう箱を洗った。あまり大きいのでびっすりした。みんなの来るまで、きせかへを作つてゐた。

歸りは、岩丸先生におんぶしていただいた。バールとか、歸ったらおしめをかへてあげろ、などとおっしゃったので、いやになつてしまった。それから、時々川の上によつて、今にもおんぶさうになさるので、こはめ

甘んじろ、いりおろした。



階段の脚もおぶさうてあつた。と一諸に  
丘まであがると、さあおしめをかへてあげ  
るからおしめを持て来て。と先生があ  
つしやるのではづかしなつてしまつた。  
それからお部屋をきいてしたる荷  
物にふろしきをかけた。電燈をつけ  
両側にいけ花をした。とエもきいてなつて  
から、おうちの方をお呼びして、お部屋ご  
とに一列に並んだ。いよいよ始つた。すず  
めのお部屋から白百合・ひな菊・鈴蘭の順  
にした。梅谷さんのをどりもあつた。  
寝る時は、國行さんと一緒に寝た。  
今日は楽しい一日だった。



のどろ、あつらんわえ。

六月二日

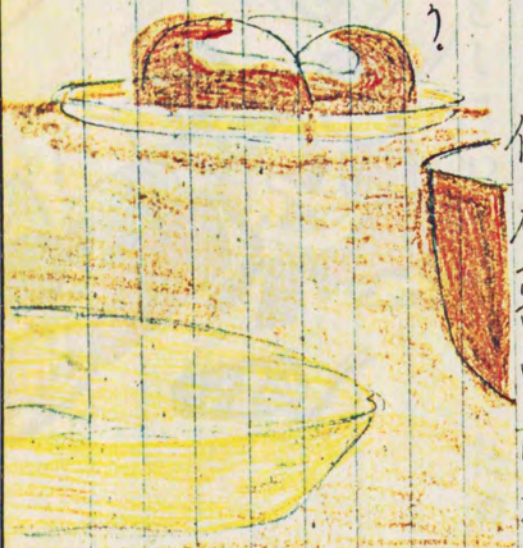
朝会がすんでから、お米を前田寮に  
運ばんした。私は、みんなの荷物を持  
つた。雨が降つて、傘があるのじゃまな  
だ。鈴蘭のお部屋できせかへを作つて  
ると、石田先生がいらつした。だつこを  
して天井まで手をのばして見た。何だかこ  
いやうだ。肩車もして見た。だいた、もう少  
し、頭が天井につきさうだ。あつして  
ただ、時は何となくこはあつた。  
加藤先生がおらんが、こはあつた。  
つて、五・六人のお後で歌つてゐるので、  
も歌つた。それから石丸先生のワイヤ  
ツのつぎをした。出たので、お餅をつい  
つて下へ行く。と、男の先生がお餅をつい  
ていらつした。お餅の先生が、お餅にあん  
こをついていらつした。早くいただきたい  
なあと、思つた。お餅をついてゐるのを  
見てゐると、二・三年の人が見にま  
たの、私たちには、お倉の役の所に腰掛  
けて見てゐた。又少し見てからボタン  
をつけにお部屋へもどつた。  
お晝食になつたので、二・三年と一諸  
出發した。



行つて見ると、向笠さんや、萩葉さんや、  
 神谷さんや、松本さんの面會人が玄關  
 の所にいらつしゃつたのでびっくりした。  
 午後からずっと學校にゐた。まだい  
 つもより早くお夕食になった。さう  
 して、おはぎ二つにお願とう一さぢだ  
 った。先生が、これは久米川にゐた  
 時、チンコーハクさんにいただいたのを  
 主事先生が福光へ来る時、エッナラ  
 オッナラしよつていらつしゃつたのです。  
 におつしゃつた。御飯はいつもより少く  
 おつゆは、おとうふだった。先生がつ  
 いて下さつて、先生があんをつけて下さ  
 ったのを感謝しておいしくいただいた。  
 た。二年生が、あんこだけ先にいただ  
 いてゐるのでおぎやう儀が悪いなあ  
 と思つた。  
 もたない味やいせう。

オイニイ

大に頑張るサア  
 アマイ  
 ナア



六月三日、日曜日

今日は、全校運動があるのだ。したく  
 したくしてむづむづしてゐる。朝食後  
 有賀先生の目の前で走つて見て、明日  
 行けるかどうかを見て下さつた。先生が  
 行けるとおつしゃつたので、うれしかった。  
 だが、今日の全校運動は七コはいけな  
 いとおつしゃつたので、つまらないな  
 外に出て、四五人で、ここらこころ一さして  
 遊んだ。むかふかに思ふと又こちうとい  
 ふように動くので、ふりふりになつてしま  
 った。体操がすんで男子は帽子取り、サ  
 手は四五六年がしうるね、球二三年が、こ  
 う球をした。今日は赤ばかり勝つてしま  
 ない。時々、過度を見にお部屋へ行く。  
 三色石戦は、今度は白が勝った。これで、  
 赤白おあひこだから、ちやうどよいと思つた。  
 お昼食まで、日記を書いた。二三年の人が  
 見に来るので、いやになつてしまった。

午後から寮へ歸つた。日記を書いてお  
 ると、レコードの聞きたい人はいらつしゃ  
 いと先生がおつしゃつたので、日記を持  
 行つた。長椅子に勝を掛けて、日記を書  
 たり、目をつぶつたりして聞いた。静か



音楽は實によいものね

とてもよい音楽だった。少し聞いてから、  
ひな菊のお部屋で日記を書いた。それから  
から、上原さんと河井さんと三人で、ゆう便  
局へ行って、葉書を一枚づつ買ってきた。  
お夕食に行った時は、いつもお夕飯の  
ち(前田寮)が一番早かった。土岐さんたち  
か、前田寮一番ノリと小さな字で黒板  
に書いてあるので、白墨がもったいないわ  
よ。と言った。やうとやめた。

かへってから明日着る物を用意した  
り、お手洗ひに寒暖計をつるしたり、  
計る順をきめてねた。少年航空兵が  
昨日の夜で終わったので、今日から、西遊記  
をしていただくやうに願ひした。教官室  
では有賀先生が、お餅を切っていてい  
しゃった。お話がすむと八百屋さんたちが  
時計とにらめっこをしていらしたの  
でおかしくなつた。

まじつに研究するたい  
はたやといものやう



六月四日月曜日

ちよつと目をさますと、もう高嶋さんと中  
川さんが起きて、こいろうしやうたさうして、河井  
さんのかへまきをかぶって、本を讀んでいら  
しゃった。あんなに起きていらしゃって、ぬ  
むくないのかしらなぞと思つて又うつら  
うつらとぬむつてしまった。少ししてから、  
高嶋さんが起きて下さった。山崎さん  
と二人で、私はおひふを着て二人でかへま  
きをかぶった。ちやうど日記がたまつておた  
ので、それを書いた。何だが、教官室から、  
お化が出て来さうな気がする。ぬむい  
ながら、日記を書きながら、時計を  
見た。あとの分、あとの分と言ひながら、  
二時二分前になつてから、温度を見に行  
た。奥の方の電燈がちらちらと見え、人  
玉が動くやうな気がする。うすぼんやり  
見えるあかりの下、寒暖計を見る。十  
五度だった。高嶋さんたちが計つてぬる  
時と同じだった。でも日中とくらべると、  
とずつとちがふものだ。なあと思つた。  
平松さん■を起して私はふとんの中に  
はいた。一時間も起ておたのでぬむた  
かった。おふとんにはいろとすぐぬてしま



た。朝まだ早いのに少しさゆいでぬるやうに思はれたので目をさますと、守口さんが階段の所から「早く来て下さい」と言つたまますぐ行つてしまつた。考へて見れば、今日はかけ足があつたのだ。ふとんもたたまず洗面もしないで、急いで神社へかけつけた。前田寮だけ何だかぬむたさうな顔だ。

この間と同じ道をかけ足した。今度は、いんたんにころぶ人がゐなかつた。

寮へ歸つて洗面をし、行くやう意をし、すががさをかぶつて出た。お話をしようとしてくつくとすががさが重つてしまふなかな不便だ。だがあまり暑い時は、目よけになるからよいと思つた。國語の時間に晴れたる山をお習ひした。とてもよい歌だ。ぬもあの晴れきつた山のやうな心にしようと思つた。

お晝食がすんであべんたうをのめひしゃくをすすりへて、寮へかへり、寢床を敷いた。きっちり二時に出發した。本部へ戻る人もこの間よりずつと少なかつた。

この間はどんな事したの。などと聞いたり話したりしてゐるうちに、訓練所へ着いた。おうちのやうな所から、ずつと行つて草原に道を置いて、竹の子の皮をむいた。途中から皮をむいた竹の子をこまかく切つた。自分たちで皮をむいたりして作つたおやつは、いんたんにあつたり、上原さんの隣で青い所に雲の字を書いてゐる。岩丸先生が、かういふのはただけで、真綿のやうなものをいんたんに下さうと上原さんとさがしながり、むいてはいたたき、又むいてはいたたいた。男の子が「ああまずい氣持がわるくなつた。のびるやうな口なほしにたべよう。などと言つてゐる。楽しいお夕飯もすんで、みんなたき火のまはり集つて、軍歌演習をした。春、夏、秋、冬、のしぎんをなさつた。どじょう子とか、ふな子におつしやつたので、どつと笑つた。それもすんでいよいよたから探した。どこに、あるのだらうな、と思つてゐると、あつたあつた。こむかふで言ふので、



⑥ くらきしきせうにょ

気がせいつしやうがない。一つも見つからな  
いうちに終になつて、攻撃軍と守備軍  
に別れて並んだ。私たちは、第四小隊で、  
小隊長が阿部先生で、攻撃軍の中  
隊長は、喜門先生だった。有賀先生と、  
山口先生は、分隊長だった。

敵が出て来たとき、たんもうとりこになつ  
てしまった。とても残念だった。今度こゝ  
はがんばらうと思つた。夜、鼻暗な道を、  
通つて歸つた。つかれたので、すぐぬむ  
つてしまった。



アッタ アッタ  
ウレシイナ

六月五日火曜日

昨日あそく寝たので、七時起床だった。  
洗面の途中で、小泉さんとお手洗のお掃除  
をした。食器を持って行った。食事當番  
なので炊事場に行くとき、まだ三年六  
がをけを待つて来ないので待つてゐた。

午上中は、寮へ歸つて昨日の感想文を  
書いた。私は、演習の事を書いた。書きなが  
り、昨日の事を思ひ出してはあかしくなつ  
た。それが書いてから、鈴蘭のお部屋へ行  
つてもう布を敷きたはるをみて、岩丸先  
生の隣へ寝た。結構わやうなのを讀んで  
いらつしたのであかしかった。岩丸先生に  
だきついてゐた。なかなかぬむれないの  
で、二百までかぞへてゐる。いつのまにか  
ぬむつてしまった。たいが寝ると、岩丸先  
生がお起きになつたのでびつくりして、私  
も起きた。出發用意だ。ぬむたかった  
が、おそんをたたんで、すぐ外へ出た。ま  
だぬむけがとれない。お晝はあかゆと  
ふきだった。とろろとろ、きよは夕食に  
いたたき事にした。午後からは、國語だ  
けだった。晴れたる山をあん唱してから  
お帳面に書きうつした。ふ通の歌と



ちがって、二羽になつて、きろてんがない。  
 なんだかへんな氣がした。それから寮  
 へ歸つて日記を書いた。國語の讀む  
 あけいこもした。するとすぐ出發用意  
 になつてしまつたので、これなら歸らな  
 ければもつと日記が書けたのにと思  
 った。歸りは、小矢部川の中州の  
 所へ行つて、石を投げたりした。草  
 餅のやうな色をした石が沢山あつ  
 た。歸つてから先生が、下駄のはな  
 きのすげ方を教へて下さつた。それか  
 ら、前ばなをを作つた。



六月六日水曜日

朝會の時来た順にかけ足をした。  
 はだしの人も運動ぐつの人にも半分づ  
 つぐらぬだ。そのうちに長い列になつた。  
 かけ足がすんでから、男と女に別れて、番  
 号をかけた。サ子で一番は、一部六年の  
 田代さんだつた。淑は、二一番だつた。  
 それから朝會のたけいれに集つて、  
 号令のかけ方をした。三部六年から順  
 にした。一通りすんでから、五年サ子と、三  
 部六年だけした。それからからるい体操  
 をした。宮城よう舞を忘れたので、途  
 中でした。それからうすづ一時目になつ  
 た。地理で氣候を調べた。寒流暖流や、  
 風や、雨や、しほの取れる事をお習ひした  
 雨は、ためてをくと、ユメートル位ぬだとい  
 ふのをお習ひした。もしもさうだつたら  
 どうだらうと思つた。音樂の時間は、  
 男子と女子と別になつて、四時間目と  
 受つたので、自習で日記を書いた。  
 音樂の時間は、サ子だけでした。大八洲や、  
 戦友や、日本海々戦、四季の雨をした。大八  
 洲は、三部合唱をした。五年が高音部  
 で、二部六年と一部六年の五人と、残りの人



に分かれてした。私は中部がしたく  
つたまらなかつた。お晝は昨日と同じ  
おめゆだった。おなすど大根の煮つけ  
もあった。すんでから、阿部先生がいら  
っしゃって、

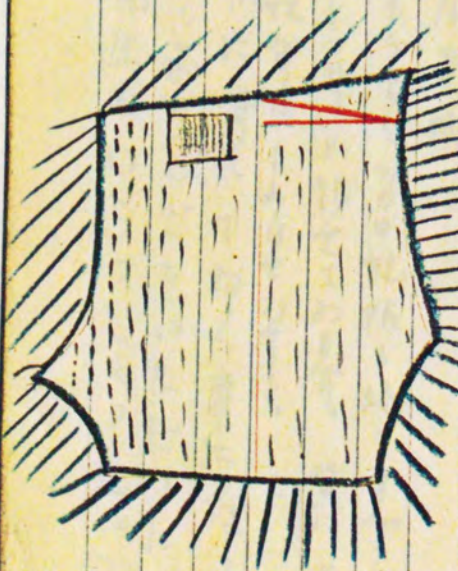
「今度から、一日一人一合づつへりました。さ  
うして朝昼は堅い御飯を半分づつに  
するが、今日のやうなおめゆに、お煮つけ  
やなりかをよぶんにするが、それとも、  
わらびや、ふきを一諸にして増水にする  
か。とおっしゃってから、これから、おめゆの  
よい入。増水のよい入。ふ通の御飯のよ  
い入。とお聞きになった。私は、お増水  
の時手をあげた。だが、おめゆ、おふつ  
うの御飯でも、ただけるし、おせだ。デ  
して、那島の學童たちや、沖繩島で働い  
てお下さる、矢張さんの事を思へば、ふへい  
を、言うては、もつた、いい、と思つた。  
何となくそんな事を考へてゐると、いつ  
もよりお腹がはったやうに思はれた。で  
もほんたうに、今日は、沼山あったなあ。  
それから、日記を書いた。又、岩崎さんや、  
中村さん、お見に来たので、いやになつてし  
まった。そんな見に来るのやうが、

平蔵さんと、同じ日に書き出したが、二  
人で放敷を敷へて見たら、私の方が、  
すぐすみさうになつてしまった。

それから、いろいろな事をした。

音楽の本を見ながら歌を歌つてゐると、ド  
ーンドーン。と、いきなりたいこをおたき  
に、なつたので、びっくりした。た、こがなると言ふ  
事を忘れて、おたきした。阿久保先生が、五時  
間目は、やめて、六時間目。とおっしゃつた。

自習なのだが、する事が無いので、窓の  
外へ行つて、中川さんとお話した。とても氣  
持がよかつた。それから、又少し日記を書  
いた。それから、上原さんと中川さんと三人  
で外に出つて、いろいろ思ひ出話をした。と  
ても面白い話だった。夜は、下ばきのめた細  
をかへして、いた、だいて、後のもつけくはへ切つ  
た早く出きあがる、とよいな、あと思つた。





竹さんのはかきのゑを見ていらつしやうた。

お掃がすんでからすぐ寮へ歸つて、お掃の一班から、順にお風呂へはいた。

あまりお湯が多いで、板が浮いてしま  
った。あがつから、腰まりと、胴まほりを

計つていたたき、堅紙型を書きなほした。  
一、ニセニナも囹がちがつてゐたのびつくりし

た。それから先生につめを切つていただい  
てから、大沢さんとかはつてお風呂たきをし

た。右の足だけが熱く、左足は熱くなか  
った。大ぶししてから菅周さんとかはった。せつか

く、二年生の時にうんともやして二年生を熱  
からせてやううと思つたのに今はつてしまつ

てはつまらないなあ。  
夕食後おりんごがあつた。今日から、くつを

いた人でもお部屋にはいる時は足をふく事になった。さうしてふく順も四年生的小

六月七日 検  
もうすい  
まひ記帳も終りすね  
大さう面わく

いふと記せしめり。皆に可愛けれあらたり  
性質はしめせり可ふ。

さい噺にずれておゝ事になった。みんな揃つてから、おりんごをいたいた。石田先生、加

藤先生もいらつしやうた。







